

クリック証券子会社化について説明資料

平成22年9月29日

はじめに

**「日本を代表するインフラ事業者」から、
「日本を代表するインターネット総合企業グループ」へ**

1. 概要

**クリック証券株式につき、
以下の内容にてGMOインターネットが取得します。**

株数 5,610,000株（保有株式割合36.9%）

株価 940円

取得総額 5,273,400,000円

**保有株式割合が40.1%となり、
実質支配基準の適用により2010年10月1日より連結子会社となります。**

2. クリック証券の概要

| | |
|-------------------|---------------------------------------|
| 名 称 | クリック証券株式会社 |
| 所 在 地 | 東京都渋谷区道玄坂1丁目10番8号 |
| 代 表 者 の 役 職 ・ 氏 名 | 代表取締役社長 高島秀行 |
| 事 業 内 容 | 一般投資家に対する有価証券取引や外国為替証拠金取引サービスのオンライン提供 |
| 資 本 金 | (連結)3,030百万円(平成22年3月末現在) |
| 設 立 年 月 日 | 平成17年10月28日 |
| 発 行 済 株 式 数 | 15,210,400株(平成22年3月末現在) |
| 決 算 期 | 3月31日 |
| 従 業 員 数 | (連結)103名(平成22年3月末現在) |

3. クリック証券の過去の業績と財政状態

| 決算期 | 平成20年3月期 第3期(単体) | 平成21年3月期 第4期 | 平成22年3月期 第5期 |
|----------------|---------------------|-----------------|-----------------|
| 純 資 産 | 2,985百万円 | 5,872百万円 | 9,392百万円 |
| 総 資 産 | 29,088百万円 | 55,865百万円 | 89,979百万円 |
| 1 株 当 たり 純 資 産 | 51,747.52円 | 77,212.87円 | 617.52円 |
| 営 業 収 益 | 3,027百万円 | 8,079百万円 | 16,341百万円 |
| 営 業 利 益 | 201百万円 | 3,165百万円 | 7,211百万円 |
| 経 常 利 益 | 196百万円 | 3,160百万円 | 7,213百万円 |
| 当 期 純 利 益 | 236百万円 | 1,883百万円 | 3,976百万円 |

4. 目的と効果(定性面)

1. 個人向けサービスにおけるマーケティング効果、知名度向上

- ✓ 当社のソーシャルアプリ、スマートフォンアプリマーケット等、個人向けサービスへの進出
- ✓ メディア露出(TV、スポーツスポンサー等)によるブランド・知名度の活用

2. GMOとくとくポイントの普及

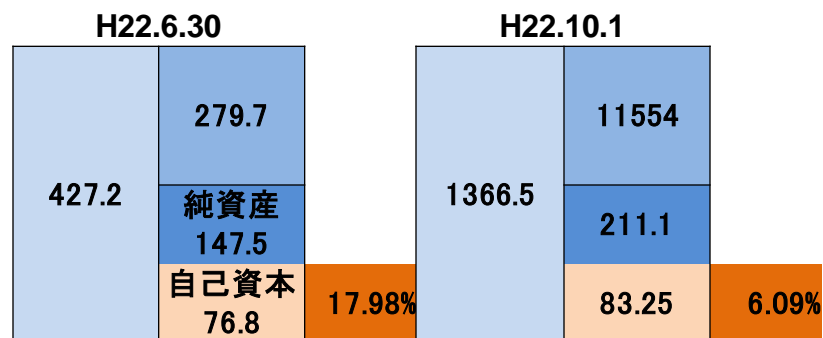
- ✓ EC支援事業におけるGMOとくとくポイントの発行・流通量の増加

3. 利益ドライバーとしての、新規事業投資の原資を創出

- ✓ PER7倍(FX事業)の利益を原資として、PER20倍~である成長インターネット分野への再投資を行う

5. 財務的影響(BS)

2010年度財政状態に与える影響 (BSイメージ) (単位:億円)



40%取得

| | | |
|-----------|-------|-------|
| クリックのれん残高 | 0億円 | 20億円 |
| 連結現金預金 | 242億円 | 362億円 |
| 借入金 | 112億円 | 174億円 |
| ネットキャッシュ | 130億円 | 188億円 |

6. バリュエーションについて

クリック証券の100%評価→約143億円

2010年3月の実績PERで3.6倍

マネーパートナーズは実績PERで7.1倍などであり、類似企業倍率法で考えると取得価格はリーズナブルといえる。

クリック証券の強み – サマリー

成長力

- ✓ 顧客基盤 業界トップの口座数成長率
- ✓ 売買高 FX取引市場を中心として売買高は拡大傾向
- ✓ 収益・利益 収益及び利益の双方で、設立以来一貫して成長

競争力

- ✓ 商品競争力 手数料・取引条件
- ✓ 利益率 業界トップ水準の経常利益率
- ✓ コスト競争力 自社内システム開発、管理及び運用を通じた開発費の削減

ユーザー・市場の評価

- ✓ 顧客 積極的なマーケティングが奏功し、認知度が上昇中
- ✓ 第三者機関 オリコンCSランキング・ストックリサーチ等でトップ評価を獲得

技術力

- ✓ 社内開発力 取引システムの企画・開発から運用・保守までを内製化
- ✓ 投資効率 自社システム開発、オープンソース活用
- ✓ 柔軟な運用 取引システム及びバックオフィスの業務プロセスを自動化

市場成長メリット

- ✓ ネット取引 個人株式取引におけるネット証券のシェア拡大
- ✓ FX取引市場 FX取引市場の成長による収益機会の更なる拡大
- ✓ くりっく365 急激な成長を続けているくりっく365市場への参入

クリック証券の強み – 成長力①

口座数／預り資産残高の成長

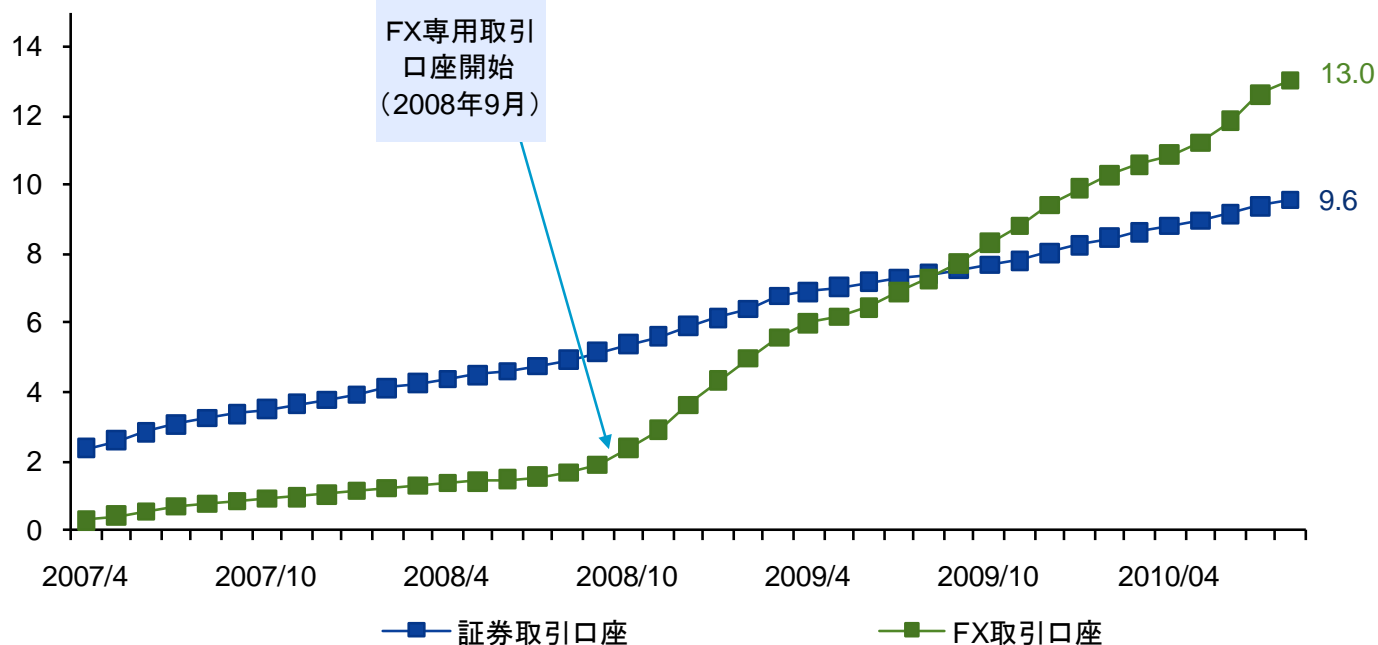
2006年4月の開業より、顧客基盤は順調に拡大

■取引口座数

- 証券取引口座においては開業以来、一カ月当たり1,000 - 2,000口座程度のペースで安定的に増加しており、2009年12月現在で8万口座を突破。2011/3期においては10万口座突破を見込む
- FX取引口座においては、サービス開始以降一カ月当たり500 - 1000口座程度のペースで増加していたが、2008年下期以降の取引スプレッド縮小やFX専用取引口座の開始に伴い、開設数が著しく伸長し2010年2月で10万口座を達成

取引口座数推移

(万口座)



クリック証券の強み - 成長力②

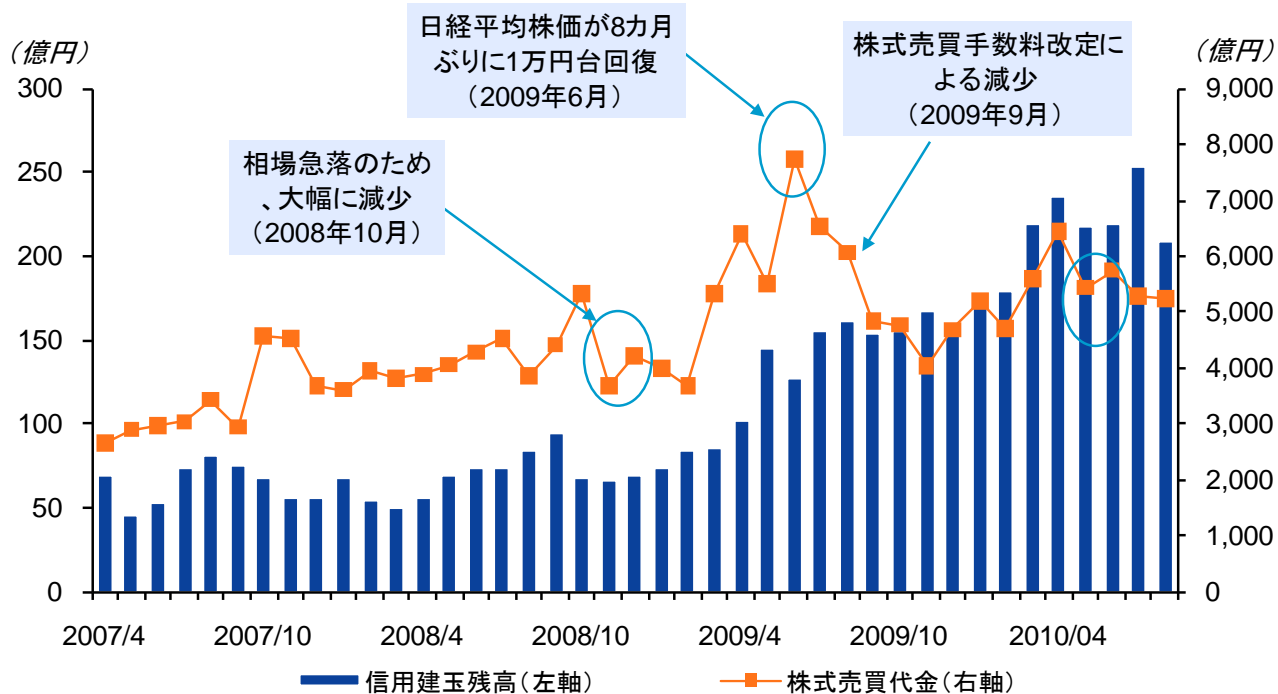
売買代金の成長

顧客基盤と同様、売買代金は拡大傾向

■ 株式売買代金及び信用建玉

- 株式市場の長期低迷という厳しい状況下においても2009年6月に月間の売買代金が7,900億円を突破し、過去最高を記録
- 信用建玉は株価の状況に左右される為、残高の変動幅は大きい為、日経平均株価が上昇局面を迎えた2009年4月から急増し、基盤となる信用口座数・預かり金も増加傾向に

株式売買代金／信用建玉推移



クリック証券の強み – 成長力③

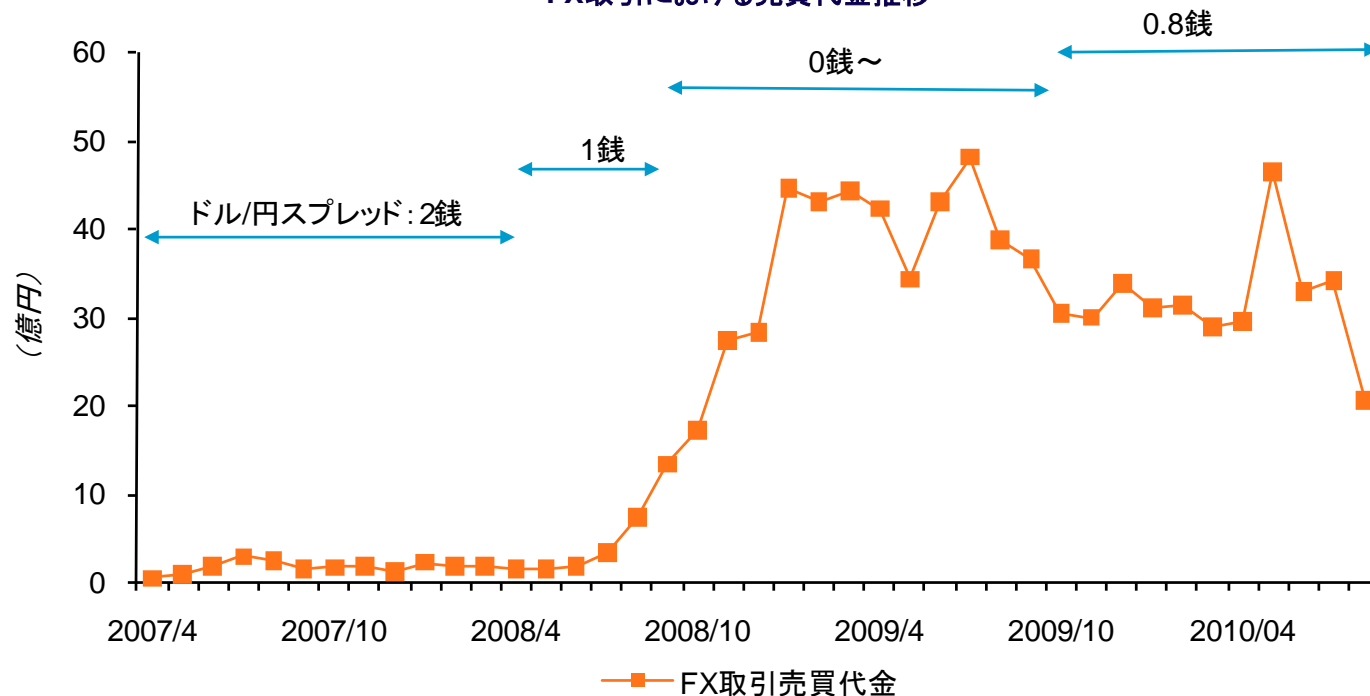
売買代金の成長

FX取引において著しい伸長

■FX取引売買代金

- 2008年7月より各通貨ペアのスプレッド縮小を実施した結果、取引高は業界トップに(矢野経済研究所「2010年版 FX市場の動向と展望」)
- 各社のキャンペーン実施や相場環境の影響もあり、取引高は大きく増減を繰り返しているものの、売買代金は依然として業界トップクラス

FX取引における売買代金推移



注: 2009年4月以降の売買代金は子会社からのカバー取引を含む

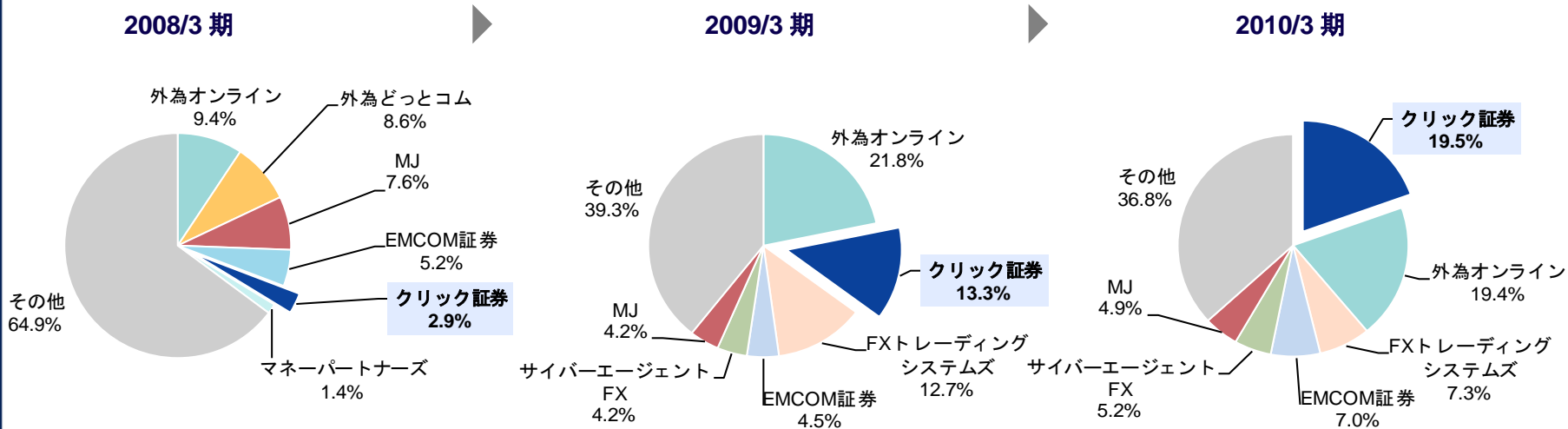
クリック証券の強み – 成長力⑤

FX取引高市場シェア

FX 取引高市場シェアの大幅拡大

■競争の激化に伴い順位が目まぐるしく変動していたが、2008年頃から、低スプレッド競争に参入したFX業者（外為オンライン、FXトレーディングシステムズ、クリック証券）と他のFX業者において、格差が徐々に拡大し、現状においては外為オンラインとクリック証券の2強の状態に。2010年3月期では業界トップシェアを獲得。

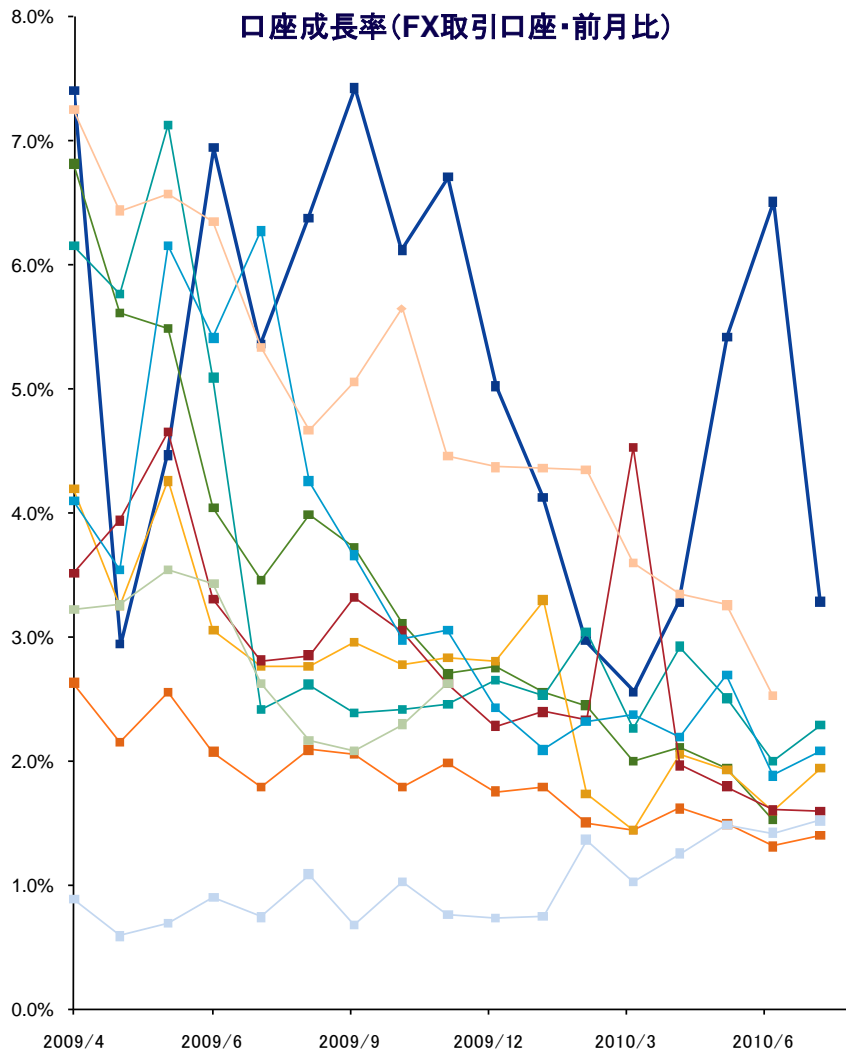
市場シェアの推移



注： 市場占有率：資料における年間取引高合計（取引所取引を除く）を100%として算出
 FX業者各社により百万ドル、百万通貨、億円と単位が異なるため、便宜上これらを一本化して比較したシェアを記載

出所： 矢野経済研究所「2010年版FX市場の動向と展望」よりクリック証券作成

クリック証券の強み - 成長力④



FX取引業における顧客基盤

FX取引業における顧客基盤の成長率においてはクリック証券が他FX業者を大幅に上回る

■ 口座数成長率

- 直近におけるFX取引口座数の成長率においては、クリック証券の成長率が他FX業者の成長率(2 - 3%程度)を大幅に上回る

- クリック証券
- 外為どっとコム
- 外為オンライン
- マネーパートナーズ
- サイバーエージェントFX
- ヒロセ通商
- FXプライム
- FXCMジャパン
- FXトレーディングシステムズ
- フォーランド・フォレックス

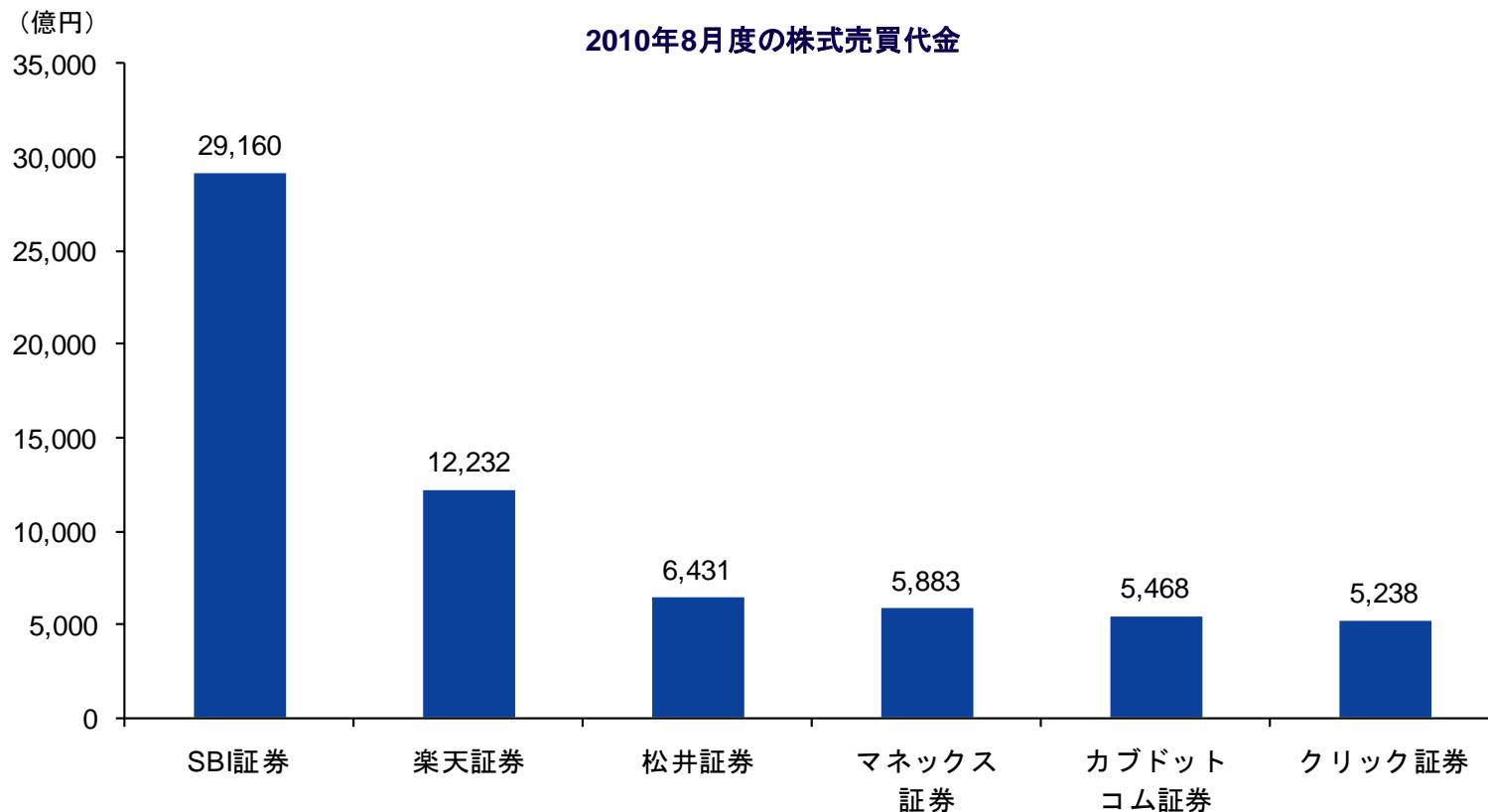
出所: 各会社情報よりクリック証券作成

クリック証券の強み – 成長力⑥

インターネット証券 株式委託売買代金

インターネット証券売買代金の拡大

各社が手数料競争や相場状況等の影響により売買代金を減少させる状況であるが、クリック証券はサービスの提供開始以降、順調に売買代金が増加しており、2009年度では大手ネット証券5社に迫るポジションとなった。



出所：各社会社情報よりクリック証券作成

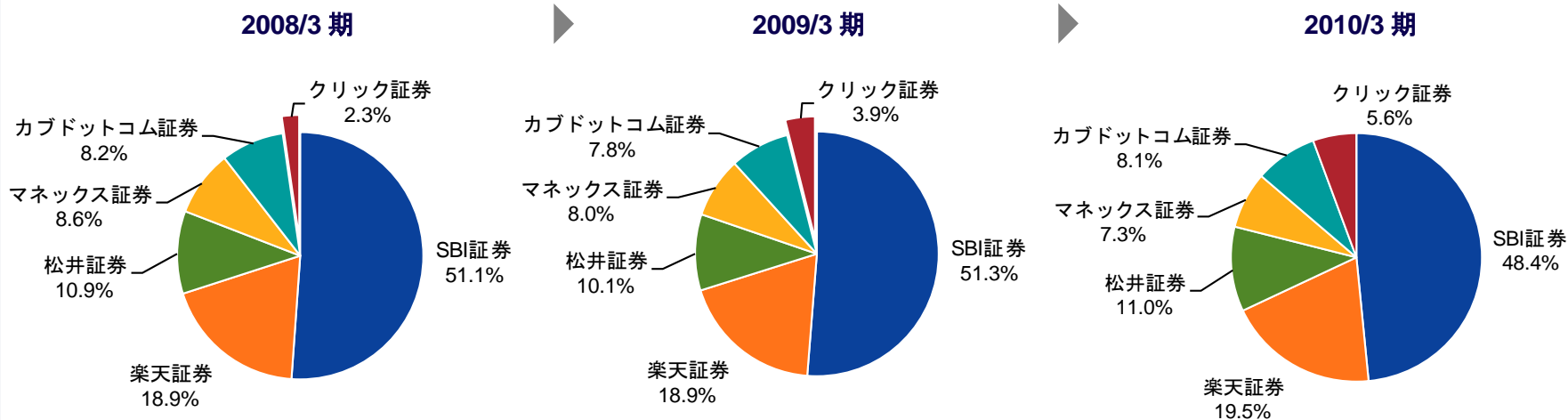
クリック証券の強み – 成長力⑦

インターネット証券 株式委託売買代金市場シェア

インターネット証券売買代金市場シェアの拡大

■株式相場が長期低迷状態にあり、業界全体の売買代金が落ち込む状況下においても、クリック証券の売買代金は堅調な増加を見せ、市場シェアの拡大に寄与

市場シェアの推移



注：市場占有率：掲載6社の合計を100として算出

出所：各会社情報よりクリック証券作成

クリック証券の強み - 成長力⑧

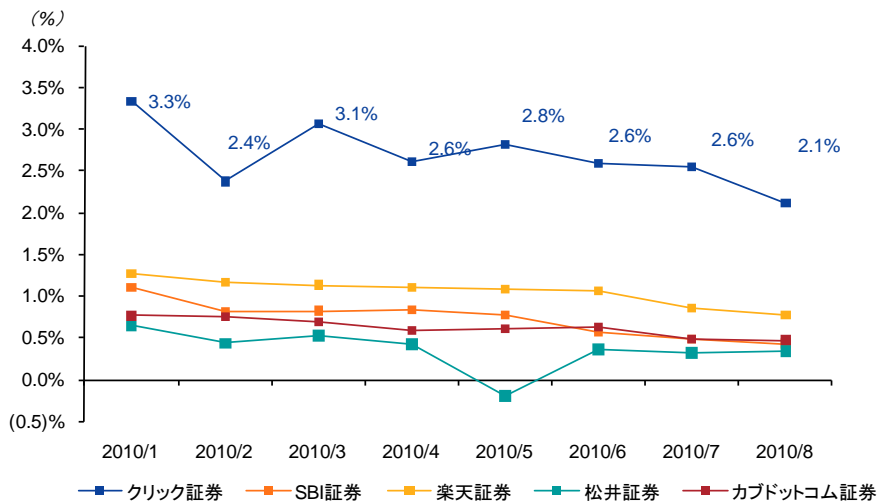
インターネット証券顧客基盤

インターネット証券顧客基盤の成長率においてはクリック証券が他社を上回る

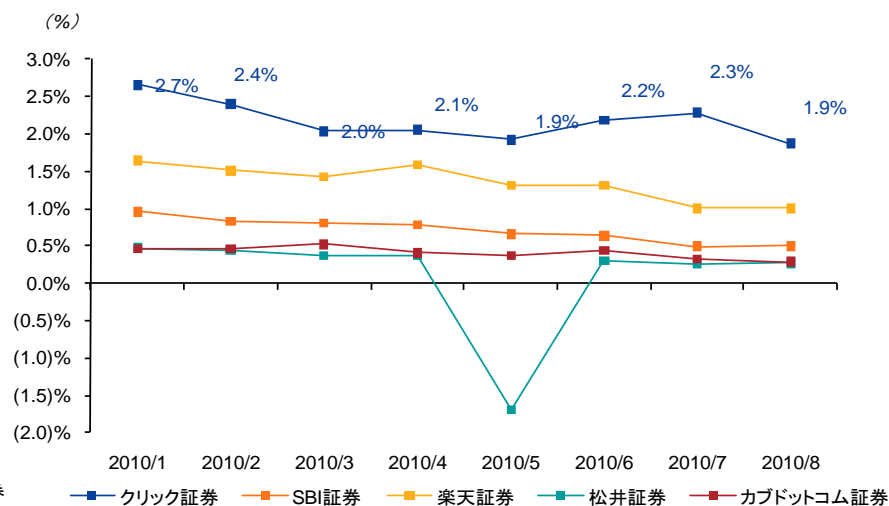
■口座成長率

- 総口座数 / 信用口座数の双方において、クリック証券の成長率が他社の成長率(1 - 2%程度)を大幅に上回る

口座数成長率(信用口座数、前月比)



口座数成長率(総口座数、前月比)



マネックス証券は、オリックス証券との合併により、データの連続性がないため除外。

出所: 各会社情報よりクリック証券作成

クリック証券の強み ー競争力①

- 業界No1の取引条件を提供
- ー高い技術力に裏打ちされたシステム関連コストの抑制を通じた取引条件の提供

株式現物取引手数料

| 約定 代金 | クリック証券 | | SBI証券 | | 松井証券 | 楽天証券 | | マネックス証券 | | カブドットコム証券 (成行) |
|---------|--------|--------|-----------|----------|---------|-----------|-----------|-------------|---------|----------------|
| | 1約定 毎 | 1日定 額制 | スタンダードプラン | アクティブプラン | | ワンショットコース | いちにち定額コース | 取引毎手数料 (成行) | 一日定額手数料 | |
| 10万円 | 105円 | 230円 | 145円 | 100円 | 21円 | 145円 | 450円 | 1,050円 | 2,625円 | 500円 |
| 50万円 | 315円 | 430円 | 358円 | 450円 | 525円 | 358円 | 450円 | 1,050円 | 2,625円 | 1,050円 |
| 100万円 | 525円 | 860円 | 639円 | 800円 | 1,050円 | 639円 | 900円 | 1,050円 | 2,625円 | 1,050円 |
| 300万円 | 1,050円 | 1,260円 | 1,209円 | 1,640円 | 3,150円 | 1,209円 | 3,150円 | 3,150円 | 2,625円 | 1,890円 |
| 500万円 | 1,260円 | 2,240円 | 1,209円 | 2,480円 | 5,250円 | 1,209円 | 5,250円 | 5,250円 | 5,250円 | 1,890円 |
| 1,000万円 | 1,260円 | 3,690円 | 1,209円 | 4,580円 | 10,500円 | 1,209円 | 10,500円 | 10,500円 | 10,500円 | 1,890円 |

FX取引における各社スプレッド

| | クリック証券 | 外為オンライン | FXプライム | マネーパートナーズ |
|---------|----------|-----------|----------|-----------|
| USD/JPY | 0.8 pips | 1.0 pips | 2.0 pips | 1.4 pips |
| EUR/JPY | 1.8 pips | 2.0 pips | 3.0 pips | 3.0 pips |
| GBP/JPY | 2.8 pips | 5.0 pips | 4.0 pips | 5.0 pips |
| AUD/JPY | 2.0 pips | 5.0 pips | 3.0 pips | 3.0 pips |
| NZD/JPY | 2.4 pips | 6.0 pips | 4.0 pips | 5.0 pips |
| CAD/JPY | 3.0 pips | 5.0 pips | 4.0 pips | 5.0 pips |
| CHF/JPY | 3.0 pips | 5.0 pips | 4.0 pips | 5.0 pips |
| ZAR/JPY | 4.0 pips | 15.0 pips | - | 4.8 pips |
| EUR/USD | 1.6 pips | 1.0 pips | 2.0 pips | 2.0 pips |
| GBP/USD | 3.0 pips | 3.0 pips | 3.0 pips | 5.0 pips |
| AUD/USD | 3.0 pips | 2.0 pips | 3.0 pips | - |

注: pipsは対円通貨ペアの場合は一銭、EUR/USD、GBP/USD及びAUD/USDの場合は0.01セント

株式信用取引手数料

| 約定 代金 | クリック証券 | | SBI証券 | | 松井証券 | 楽天証券 | | マネックス証券 | | カブドットコム証券 |
|---------|--------|--------|-----------|----------|---------|-----------|-----------|-------------|---------|-----------|
| | 1約定 毎 | 1日定 額制 | スタンダードプラン | アクティブプラン | | ワンショットコース | いちにち定額コース | 取引毎手数料 (成行) | 一日定額手数料 | |
| 10万円 | 140円 | 100円 | 150円 | 100円 | 21円 | 262円 | 450円 | 1,050円 | 2,625円 | 483円 |
| 50万円 | 140円 | 210円 | 200円 | 250円 | 525円 | 472円 | 450円 | 1,050円 | 2,625円 | 483円 |
| 100万円 | 140円 | 420円 | 400円 | 500円 | 1,050円 | 472円 | 900円 | 1,050円 | 2,625円 | 798円 |
| 300万円 | 140円 | 1,050円 | 400円 | 1,340円 | 3,150円 | 472円 | 3,150円 | 3,150円 | 2,625円 | 1,155円 |
| 500万円 | 140円 | 1,680円 | 400円 | 2,180円 | 5,250円 | 472円 | 5,250円 | 5,250円 | 5,250円 | 1,155円 |
| 1,000万円 | 140円 | 3,255円 | 400円 | 4,280円 | 10,500円 | 472円 | 10,500円 | 10,500円 | 10,500円 | 1,260円 |

出所: 各会社情報よりクリック証券作成

クリック証券の強み ー競争力②

利益率・コスト構造

効率性の高いオペレーションにより、経常利益率は高い水準

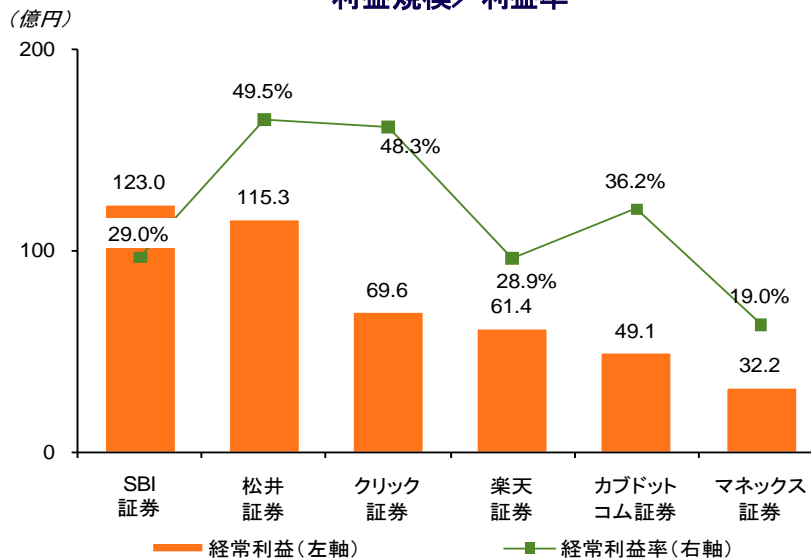
■利益規模／利益率

ークリック証券はコストを抑えたオペレーションが可能となっており、経常利益率は高い

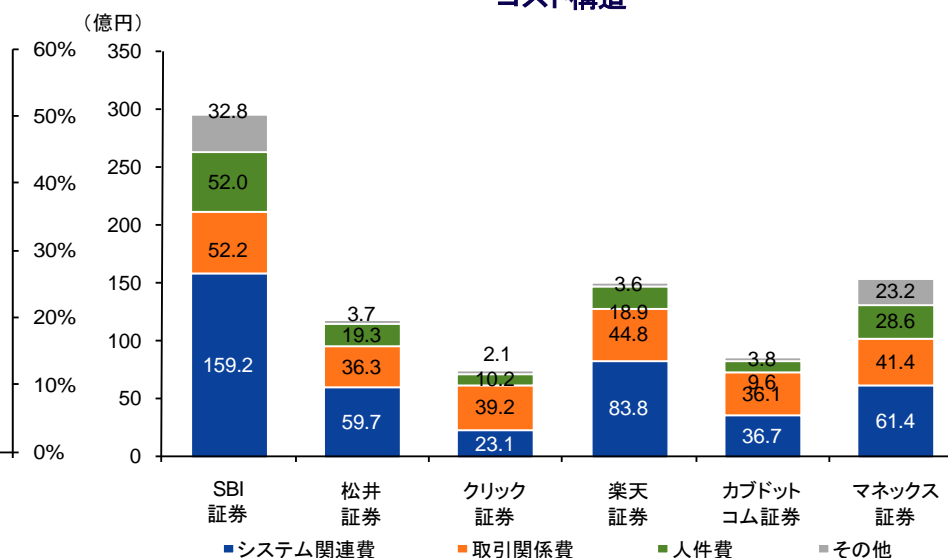
■コスト構造

ーシステムを自社開発するクリック証券のコスト構造は、広告宣伝費等の取引関係費が大部分を占め、固定費として発生するシステム関連費は低い水準にある

利益規模／利益率



コスト構造



注: 2010/3期ベース

出所: 各社会社情報よりクリック証券作成

注: システム関連費=不動産関係費+事務費+減価償却費
2010/3期ベース

マネックス証券は費用の明細を開示していないため、マネックスグループの数値を記載

クリック証券の強み –ユーザー及び市場の評価①

認知度調査

2008/3期下期からのマーケティング活動により、認知度が大きく上昇

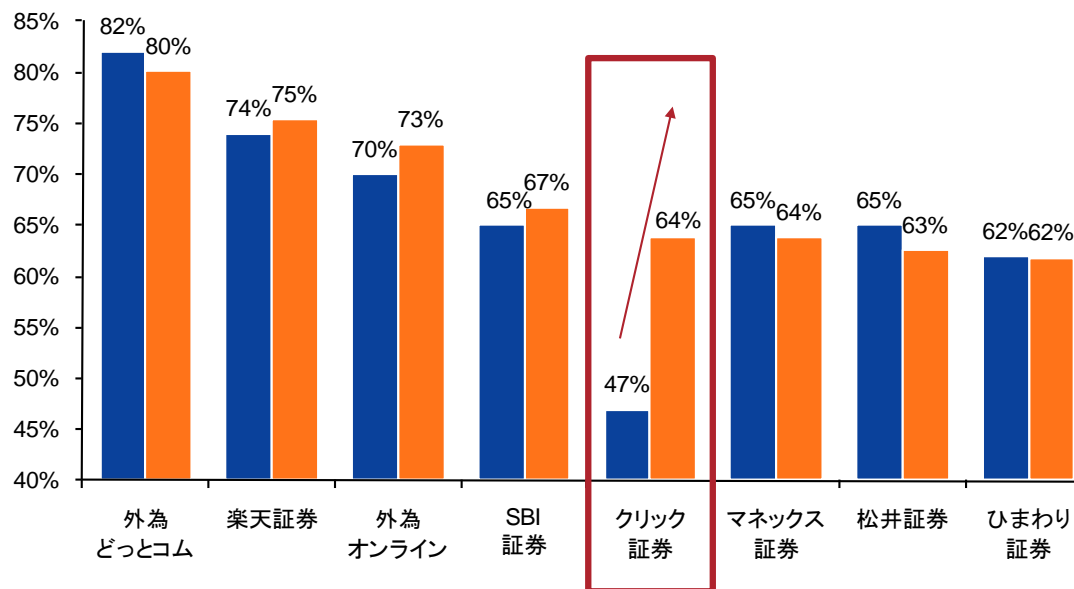
■クリック証券の認知度は大手業者の水準まで向上

–2008/3期下期からの積極的マーケティング活動により、認知度の成長率は競合他社を大きく上回る水準

–大手FX業者もクリック証券同様、大規模なマーケティング活動を行っているにも関わらず、認知度が向上してはいないことから、認知度の限界ラインに達していると考えられる

–認知度の上位確保を達成したことから、2011/3期以降においては、認知度の向上よりも、信用力の向上や商品性のアピールを通じた企業イメージの向上を図る

業者別認知度比較



出所：2009年11月実施のクリック証券認知度調査より

■ 2009/5 ■ 2009/11

クリック証券の強み –ユーザー及び市場の評価②

顧客満足度調査

満足理由は、「スプレッドの幅が狭いから」72%、「手数料が安い・無料だから」68%

■満足理由

–クリック証券が営業開始当初から重視していた取引コストに関連する項目に関しては、多くの顧客に支持されており、高い評価を得ている一方、価格競争力を有する業者が徐々に出現してきていることから、今後は取引コスト以外の項目に関する支持の獲得に取り組む

高い満足度を獲得した項目の一覧

| 項目 | 概要 |
|-------|---|
| スプレッド | ■競合他社に比べ、スプレッドの幅が狭いことに対する評価 |
| 手数料 | ■競合他社に比べ、手数料が安い、もしくは手数料が無料である点についての評価 |
| 取引ツール | ■取引ツールの使い勝手が良い点に対する評価 |
| 利便性 | ■モバイル機器（携帯電話等）からのアクセス／取引が可能である点への評価 ■モバイル機器を通じた取引が容易である点への評価 |
| 多様性 | ■FX取引以外の金融商品の取り扱いがある点についての評価 |

第三者評価機関からの高い評価

| | 概要 |
|-------------|--|
| オリコンCSランキング | <ul style="list-style-type: none"> ■実際の利用経験者（現在利用中、もしくは利用経験者）の声を集めた“顧客によるサービス利用満足度”に基づいたランキング ■インターネット証券ランキングにおいては、18歳以上で、過去3年以内にインターネット証券会社を利用して取引を行ったことがある人を対象に実施 |
| ストックリサーチ評価 | <ul style="list-style-type: none"> ■大手金融機関のアナリストやシンクタンクのリサーチャー、ジャーナリストなどの経歴を持つプロのアナリストによる、金融機関のインターネットサービスに対する評価 ■手数料体系、品揃え、使い勝手等、多方面からの評価を実施 ■コスト重視派ランキング –株式売買委託手数料（現物、信用）を中心として定額手数料や入出金にかかる振込手数料などのコストを加味した評価 |

ストックリサーチ評価
ネット証券ランキング



コスト重視派
ランキング **1位**

オリコンCSランキング
インターネット証券部門



手数料の満足度 **1位**
ホームページのわかりやすさ **1位**
総合ランキング **2位**

出所：2009年10月実施のクリック証券顧客満足度調査より

出所：オリコンCSランキング、ストックリサーチ

クリック証券の強み – 技術力

高いシステム投資効率と開発力

システム効率は収益規模に関わらず、インターネット証券大手を大きく上回る水準

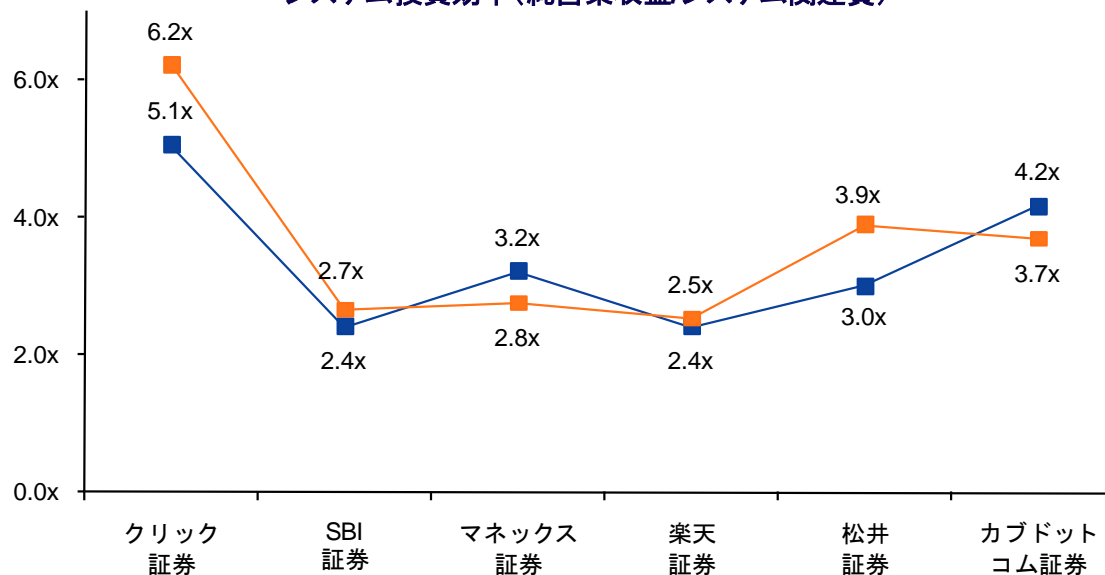
■システム投資効率

–クリック証券はシステム開発力を内部に保有するため、低コストにてシステムの構築が可能であり、大手インターネット証券と比して突出したシステム投資効率を誇る

■システム構成

–FX取引におけるフロントシステム／バックシステムに加え、証券フロントシステムを全て自社開発していることが競合他社と比した場合のシステム投資効率の高さに寄与

システム投資効率(純営業収益/システム関連費)



注:システム関連費1単位に対する獲得収益の数値、高い方が好ましい
システム関連費=不動産関係費+事務費+減価償却費

■ 2009/3期 ■ 2010/3期

クリック証券の強み – 市場成長メリット①

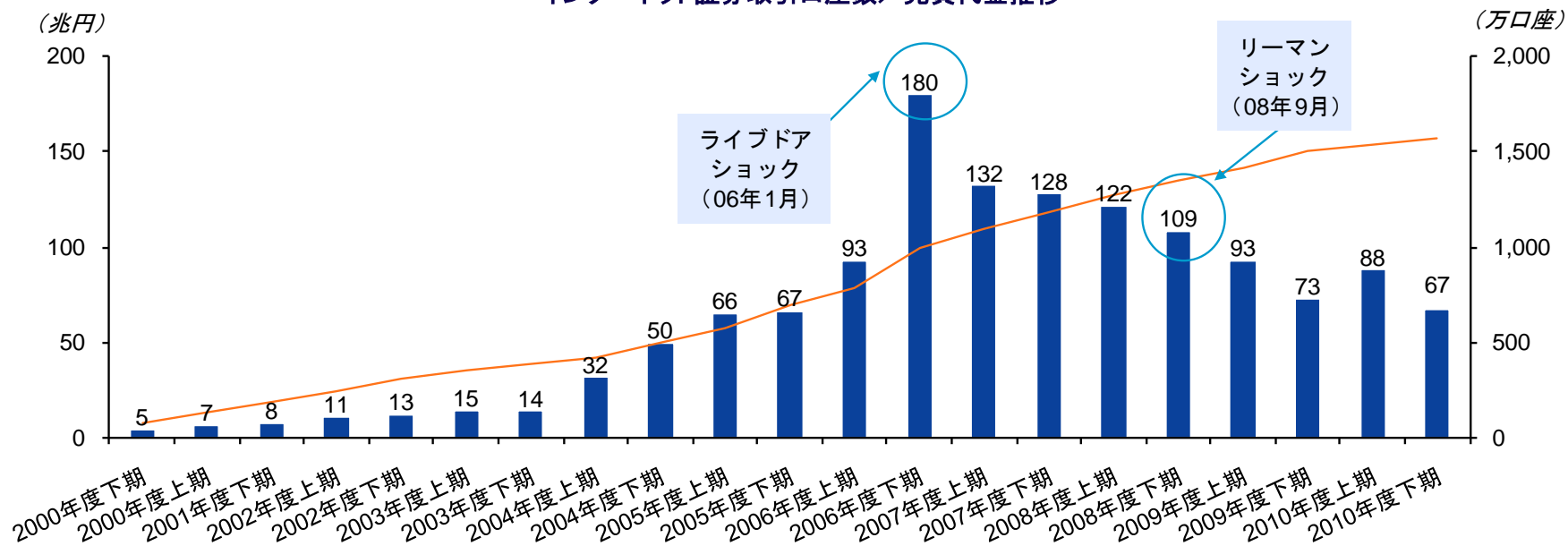
取引動向 – インターネット証券

インターネット証券市場全体の成長メリットの享受が可能

■インターネット証券取引口座・売買代金

- 2000年頃より、インターネット証券取引及び専門インターネット証券が勃興し、取引高及び業績を拡大
- 2003年夏以降における株式相場の反転や新興市場(IPO)バブルの影響により、2006年までインターネット証券取引の売買代金は爆発的に増加
- その後、ライブドアショック、リーマンショックを経て取引高の減少が続いたが、足元においては回復基調

インターネット証券取引口座数/売買代金推移



出所：日本証券業協会
「インターネット取引に関する調査結果について」2009年11月

■ 売買代金 (左軸)

— 口座数 (右軸)

クリック証券の強み – 市場成長メリット②

市場動向 – FX

FX市場全体の成長メリットの享受が可能

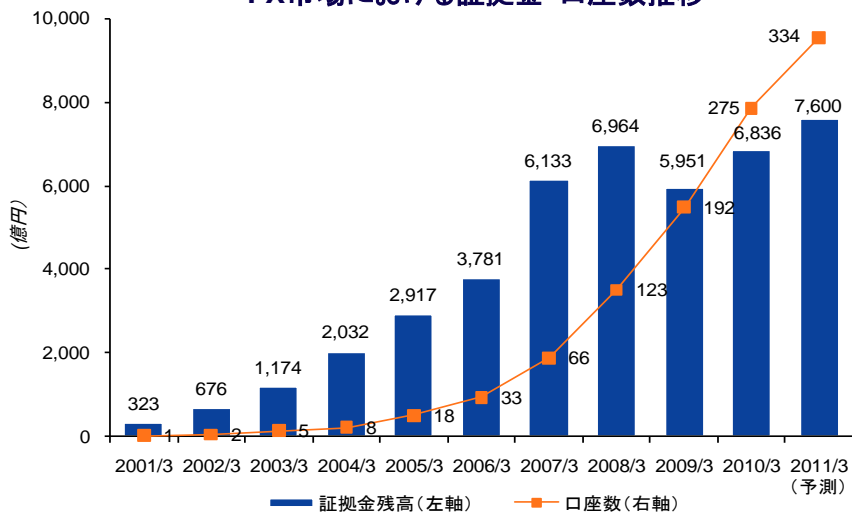
■FX取引のブーム以前(～2006年)

- 1998年の外為法改正によりFX取引の提供が可能となり、以降、商品先物・インターネット証券等が市場に参入を図り、市場規模は徐々に拡大したが、FX取引に係る業法が存在していなかったことから、2003年頃から悪徳業者による相次ぐ被害が社会問題化
- 2005年には金融先物取引法が改正され、悪徳業者の多くを排除

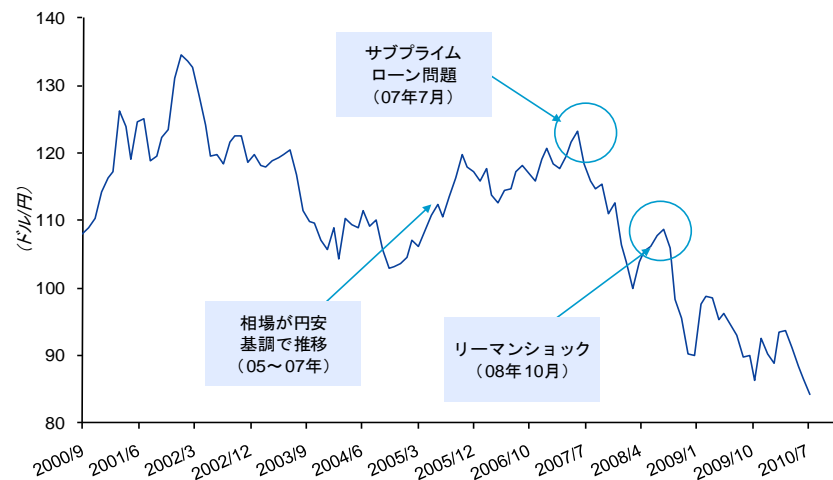
■FX取引のブーム以降(2006年～)

- 2004年下期から相場が円安傾向に推移したことに加え、国内外の金利差も大きかったことから、当時の取引の主流であったスワップ狙いの取引(外貨買/円売)を行う投資家にとり利益の出やすい相場環境が続いた
- 前述の相場環境により利益を獲得した投資家による脱税の摘発が相次いだ、これらの事件をきっかけにFXの認知度が急速に向上し、ブームと言われる状況にまで市場は急拡大
- リーマン・ショックの相場変動により証拠金は一時的に減少したものの回復傾向にあり、レバレッジ規制以降も拡大が想定される

FX市場における証拠金・口座数推移



為替レート推移(ドル/円)



出所: 矢野経済研究所『外国為替証拠金取引の動向と展望』よりクリック証券作成

クリック証券の強み – 市場成長メリット③

FX取引 – くりっく365

くりっく365への参入を通じ、市場全体の成長メリットの享受を見込む

■売買代金推移

–現状におけるくりっく365の売買代金は店頭取引には大きく劣るものの、大幅な増加傾向にある

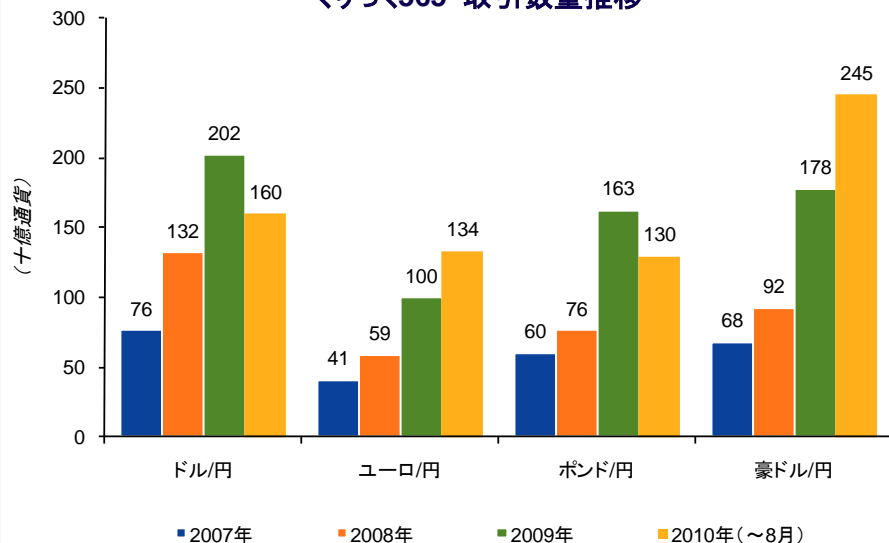
–当初よりレバレッジの低い商品を取り扱ってきたことから、2010年8月以降のレバレッジ規制の影響を受けにくく、今後も継続して取引高は増加すると見込まれる

■預入れ証拠金残高

–くりっく365は取引所取引である為、証拠金の保全における信用力が高く、特に資金力の高い投資家がくりっく365を支持

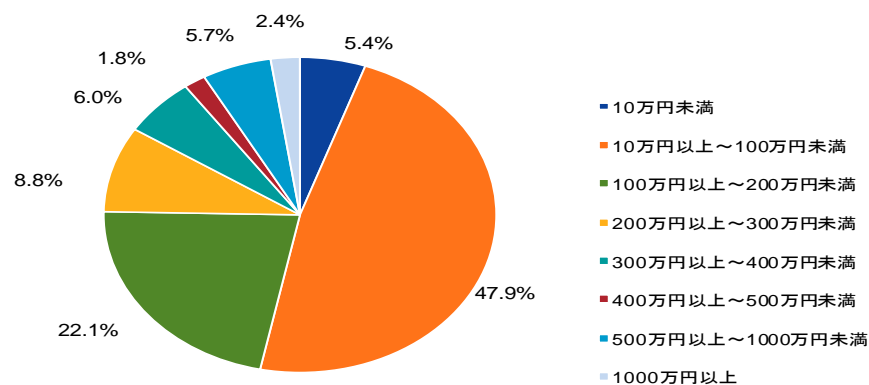
–くりっく365は税制面でのメリットを有することから、レバレッジ規制後は店頭取引の優位性が衰え、取引所取引の優位性が高まると見込まれる

くりっく365 取引数量推移



出所：東京金融取引所開示情報よりクリック証券作成

くりっく365 顧客当たり預入れ証拠金



出所：クリック証券調査データ

「日本を代表するインフラ事業者」から、
「日本を代表するインターネット総合企業グループ」へ

インターネット取引の
クリック証券

